

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	雷電為右衛門生誕 250 周年記念 どんどこ巨大紙相撲大会
事業主体 (連絡先)	丸山晚霞記念館協力会 TEL 0268-62-3700
事業区分	教育、文化の振興
事業タイプ	ソフト事業
総事業費	597,612 円 (うち支援金: 478,000 円)

事業内容

天下無双力士として名高い雷電為右衛門生誕 250 年を記念して、雷電為右衛門と同じ身長 197 センチの紙力士を制作し、取組を行うもの。

土俵、吊り屋根のほか、行司、審判、呼び出し、部屋割りなど、できる限り大相撲に模して開催。

制作ワークショップ 10/14 (土)、10/15 (日)

大会 11/11 (土) いずれも東御市中央公民館にて。



【目標・ねらい】

- ① 幅広い市民交流
- ② 雷電為右衛門顕彰
- ③ 東御市の PR
- ④ 文化芸術への理解
- ⑤ 子どもたちの健全な育成

※自己評価【A】

【理由】

- ① あらゆる人たちの参加、協力が得られ、盛り上がった。
- ② 雷電為右衛門と東御市を全国的に PR することができた。
- ③ 来年度も開催を希望する意見が多く寄せられた。

今後の取り組み

- ・参加者へのアンケートを実施し、運営に反映させる。
- ・小学校と連携を図り、雷電学習、ちゃんこ鍋調理実習なども設け、一環した郷土学習に繋げる。
- ・実行委員会組織に格上げし、より多くの参加、協力を募る。
- ・ギネスへの登録を検討する。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	郷土を代表する水彩画家丸山晩霞のアトリエ・「羽衣荘」の整備事業（2年目）
事業主体 (連絡先)	ひと・生きもの・暮らし研究所 東御市常田681-1
事業区分	(5) 環境保全・景観形成に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	415,720 円 (うち支援金: 311,000 円)

事業内容

<「羽衣荘」の整備>

- ①庭内の花等の植栽。
シャクナゲ5本を植栽した。
- ②庭内の木々の伐採と剪定
大きく雑然と伸びたイチヨウなどを伐採し、また剪定も行った。
- ③剪定材等の処分
以前から庭内に残置され、山となっていた剪定材等の処分を行った。
- ④伐採竹のチップ化
庭内及び周辺の竹を切り、チップ化し庭内に敷く。
- ⑤碑の周り等の整備
入口の誘導路に塀を構築。



【目標・ねらい】

- ①庭の整備
- ②草花の植栽と手入れ
- ③記念館本体と連動した見学者の増加

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①「空も広がり、視界も広くなった」等と庭内の変化に気づかれ、感想を寄せる人が増えた。
- ②小学校、中学校、市民団体の見学会のルートとなった。
- ③敷き詰めた竹チップが誘導路となり、塀も構築して駐車スペースと誘導路との区別ができることになった。
- ④植栽したシャクナゲが10本となった。

※自己評価【 B 】

【理由】
伐採・剪定が進み、竹チップを敷き詰めて大きな変化はあったものの、建物が目立ち、隣地との塀が目立つなどしている。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

- ①藤村碑の保存のための方策を実施する。
- ②見晴らしがよくなったことで隣地の塀の目隠しが必要となった。
- ③旧アトリエ兼離れの可視化が必要となった。
- ④地元の方との引継ぎを考えた取り組みが必要となっている。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
 「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた
 「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	第20回高所トレーニング国際シンポジウム事業 (市民向けシンポジウム及び啓発イベント)
事業主体 (連絡先)	公益財団法人身体教育医学研究所 (事務局 Tel : 0268-61-6148、Fax : 0268-61-6148、E-mail : qa@pedam.org)
事業区分	(3) 教育、文化・スポーツの振興に関する事業
事業タイプ	ソフト事業
総事業費	3,364,848 円 (うち支援金 : 2,511,000 円)

事業内容

1. 市民向けシンポジウム (湯の丸高原ホテル)

平成29年11月18日(土)午後、19日(日)午前
 海外招聘講師2名、国内招聘講師・発表等5名
 参加者 404名 (18日午後230名、19日午前174名)
 のうち、市民参加が254名。
 ※他に、野口みずき氏(アテネオリンピック女子マラソン金メダリスト)の
 走り初めセレモニーとホールdeアクティブウォーキングに228名参加。

2. 市民向け啓発イベント (東御市文化会館サテライト)

平成29年11月19日(日)午後
 国内招聘講師4名、司会・コーディネーター1名
 参加者 東御市民など 328名



【市民向け啓発イベント関係者集合写真】

【目標・ねらい】

- ①湯の丸高原が適地とされる高所トレーニングについて市民理解を深める。
- ②市民が湯の丸高原に対して愛着や誇りを抱くシビックプライドの醸成
- ③市民への健康増進の推進を図る

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ・ シンポジウム、啓発イベントの来場者数(市民参加)目標800名に対して810名で目標達成。
- ・ 市民理解については、「高地トレーニングの知識が深まり分かりやすかった。」などの感想が多く寄せられた。
- ・ シビックプライドの醸成については、「これから東御が良くなっていくのが分かった。一緒に頑張っていきたい。」などの声が寄せられた。
- ・ 市民への健康増進については、「市民ランナーの一人ですが、是非400mトラック利用してみたいです。」といった声が寄せられた。

※自己評価【 A 】

【理由】国内外の著名な講師等を招き、生の声や体験に目標数を超える多くの市民が触れることができたことから、当初の想定を超える啓発効果をもたらしたので。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

- ・ 湯の丸高原高地トレーニングの利用促進、地域活性化、市民の健康増進等の相乗効果を産むためにも、市民がアスリートを応援するムードを高め、市民理解を深める取組みをさらに進める。
- ・ 高地トレーニングを指導・サポートできる人材育成のための教育事業を継続的に行っていく。
- ・ 高地環境を活用した市民向けの健康増進事業を具体的に展開していく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	地域ぐるみで家族への想いを共に感じ考える観劇&ワークショップ事業
事業主体 (連絡先)	東御ひだまり家族村 (事務局 tel: 090-9665-1762、FAX: 0268-64-4936、E-mail: kazoku@gmail.com)
事業区分	(3) 教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト事業
総事業費	2,623,379 円 (うち支援金: 1,808,000 円)

事業内容

1. 朗読劇「家族草子」の公演【長野県内初】

家族の大切さを地域ぐるみで考え、家族間交流と地域のつながりの醸成を図るために、「家族草子」の公演を行った。
 平成29年5月27日(土) 13:00~、17:00~の二回
 (東御市立北御牧中学校音楽ホールにて)
 午後の部 227人、夕方の部 291人が観劇

2. 「家族への想いを共に感じ考える」ワークショップ開催

小中学生及び地域住民を対象に、家族を題材としたワークショップを開催し、今後の家族のあり方や交流、地域づくりを考える機会とした。「家族草子」のメッセージをさらに多くの人に拡散する機会にも位置づけた。
 平成29年11月25日(土) 10:00~、13:30~
 (東御市中央公民館学習室にて)
 午前の部 49人 午後の部 42人が参加

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ・「家族草子」観劇者 540人以上(目標)
 …実績 518人で、達成率 96%
- ・ワークショップ参加者 100人以上(目標)
 …実績のべ 91人で、達成率 91%
- ・「家族草子」非観劇者への内容周知 300人以上(目標)
 …実質 400人以上+マスコミ、SNS等での周知により、
 達成率 150%以上
- ・任意参加の家族間交流イベントへの参加家族数の
 50%増加(目標)
 …H28年度 23家族に対して
 H29年度 33家族となり
 43%増加で、達成率 86%

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

平成29年度の「家族草子」観劇やワークショップは大変好評であり、平成30年度以降も継続を希望する声がたくさん寄せられた。ワークショップで実施した内容については、地域密着版「家族草子」として、地元メンバーが中心となって取り組みを草の根的に広げていくアイデアも出てきた。今後も、今年度事業で得られた成果・課題に基づいて事業を継続・発展させていくとともに、地域全体に家族間・地域内交流を広げていく。



【家族草子出演者と家族村スタッフの集合写真】

【目標・ねらい】

「家族草子」長野県内初公演により、
 ① 都会の文化にふれる機会を作る
 ② 家族づくり・地域づくりを共に考えるきっかけとする
 以上2点のねらいから、家族間交流と地域のつながりの醸成に取り組むことを通して、子ども・若者の健全育成、地域の助け合い・ネットワークづくりに寄与することを目指した。

※自己評価【 B 】

【理由】

「家族草子」観劇者数、ワークショップ参加者数等はいずれも目標数値にわずかに届かなかったが、観劇者、参加者、地域の反響が非常に大きく、今後につながる手応えを得たので。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	マルメロ夜イチ事業
事業主体 (連絡先)	マルメロ市実行委員会
事業区分	⑥ア 特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,430,404 円 (うち支援金 : 1,654,000 円)

事業内容

道の駅マルメロの駅を舞台としたナイトマーケットイベントです。具体的な内容は、

- ①長和町の名産品や特産品の出店
- ②キッチンカーや屋台に飲食品の販売
- ③ハンドメイド・工芸作家による販売やWS開催
- ④ファミリー連れが楽しめるアトラクションやAS開催。縁日ブース運営
- ⑤町の倶楽部活動などステージイベント

上記を踏まえ、観光客はもちろん、地域、町外(県内)の若い世代もターゲットとして、その世代に向けた内容を企画した、お客様自身が楽しみ方を見出す、体験イベントです。



【会場風景】

【目標・ねらい】

- ① ナイトマーケットイベントの定着化
- ② 町観光スポットの新設
- ③ 観光客と地元住民の交流
- ④ 各回 500名以上の来場者

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 入場者数
6月 約 500名、7月 約 300名(雨天)、10月中止
- ② 天候に恵まれず、思った以上の実施結果は得られなかったが、参加者からは、「これまでの町にはないイベント、今後も継続してほしい」等の好意的な意見をいただく。また、町内の宿泊業者からは、「長和町の夜の楽しみ方」として、宿泊客に案内できるの継続を希望されている。

※自己評価【B】

【理由】

3回中2回が、雨や台風により縮小・中止となったため、しっかりと結果を得ることはできなかったが、参加者やスタッフからは手ごたえを感じることができた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

来年度は、今年のように既存のイベントにあわせるのではなく、「夜イチ」単体として、メインの夏期にイベントを集中開催したいと思います。また内容としても、今年以上に出店を募り、参加者が自由に自分にあった楽しみ方を選択できるイベントにしていきたいと思います。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	NAVI CAFÉ MEET in NAGAWA 事業
事業主体 (連絡先)	NAVI CAFÉ MEET in NAGAWA 実行委員会 (信州・長和町観光協会)
事業区分	⑥ア 特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	2,336,974 円 (うち支援金：1,609,000 円)

事業内容

「長和町特産品・長和町情報発信コーナー」としてブースを設営。住民が「おもてなし」の心を大切にしながら、長和町特産品の試食・展示販売や長和町の観光情報の発信拠点としてイベントに訪れた観光客に楽しんでいただきながら「いつまでも長和町にいたい」「また長和町を訪れたい」と思ってもらえるようなサービスを展開しました。

また、「愛車自慢コンテスト」「ストライダーカップ」を開催し、「長和町町長賞」や「ブランシュたかやま賞」を設け、地元特産品や宿泊券、リフト券等を受賞者商品とし、イベント以降も繋がっていきけるような仕掛けを用意しました。

事業効果

- ① 入場者数：750名
昨年のプレイベントからは増加した。
- ② 宿泊数：100件
昨年同様の宿泊状況となるが、会場内にキャンプサイトを設けたことで、主にオートバイのライダー達はキャンプサイトに流れた。
全体としては、長和町への来訪者数は増加している。
来場者からは「往復の道中も含めて、最高のロケーションだ」「また来年も開催してください」など、高評価をいただいた。

今後の取り組み

来年度は、会場レイアウト、コンテンツ、開催時期の見直しを検討し、さらに集客はもちろん、企業の出展を増やし、来場者の満足度を高め、町民がより期待できるイベントへと成長していきけるように取り組んでいきます。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【目標・ねらい】

- ① 入場者数 1,000 名
- ② 宿泊数 300 泊
- ③
- ④

※自己評価【B】

【理由】

目標の動員に達しなかったことや宿泊利用が伸びなかったことから、来年度への反省を込めて、この評価とさせていただきます。

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	青木村産にんにく普及・振興事業
事業主体 (連絡先)	NPO 法人あい・友 あい・友農園 青木村 03-3485-1793
事業区分	(1)産業振興、雇用拡大に関する事業 (2)障がい者、高齢者、女性、若者の雇用促進および就業・定住支援
事業タイプ	ソフト
総事業費	8,977,659 円 (うち支援金： 3,268,000 円)

事業内容

(1)農業の機械化(青木村産にんにく)による高齢者の活用
 これまでの商品名「芽子(めご)にんにく」を、純青木村産の水耕にんにくだけが使える商品名として「赤ちゃんにんにく」の商標を登録し、三十余戸のベテラン農家さんと協働して新たなスタートをきる。収穫量を前年比の2倍に増産するとともに、「赤ちゃんにんにく」の水耕栽培に適した大きさにんにくが全体の8割となり、ほぼねらいどおりの収穫を得た。

(2)青木村当郷にドーム型の野菜工場を新設(2017年12月)し、これまでのIoTや情報化をさらに充実し、システム化することによる軽作業化や誰もが参加しやすい就労環境の整備を大きくすすめた。

(3)地産地消ブランドとして普及
 6次産業としての地産地消の推進、地域社会や学校との連携、官学産協同の絆を深めて、たくさんの方々のお力添えにより、首都圏への販売ルートもひらくことができた。



キッチンカーイベント(上) 新野菜工場(上)
 クラシックを聴いて育つ(下) 赤ちゃんにんにく(下)

【目標・ねらい】

- (1)農業の機械化による高齢者の活用
- (2)「赤ちゃんにんにく」水耕栽培ブランドの積極的なIoT化による障がい者、高齢者、女性、若者の雇用推進
- (3)6次産業を押し進め、地産地消の商品として、さらには、より広い地域に知られる商品として普及する

事業効果

(1)(2)については上記の効果があつた。今年度は、特に(3)に関して力を入れ、下記の効果となつた。

道の駅あおきのリニューアルオープン(2017年4-5月)と合わせて、青木村温泉組合(田沢温泉、杓掛温泉)とのコラボレーション企画「あおき三山天ぷらキャンペーン」が実現し、宿泊のお客様に「赤ちゃんにんにく」の天ぷらを食べていただく。この企画は、翌年(2018年2月)の銀座NAGANOスーパープレゼンテーション青木村(青木村主催)でのプレス向けのプレゼンテーションにつながつた。

青木村産業祭(2017年11月)では、首都圏の人気シェフを招いて「赤ちゃんにんにく」を使ったオリジナルメニューをリーズナブルに楽しんでいただくキッチンカーイベントを開催した。年間を通じて、信濃毎日新聞、テレビ信州、UCV 上田ケーブルビジョン各社より、何度か記事や番組で取り上げていただいた。一方で、生産技術の研究を大幅にすすめ、液肥を使わず、青木村の新鮮な水と空気だけで見事な「赤ちゃんにんにく」を育成する方法を独自に開発した。

※自己評価【 A 】

【理由】
 上記について、ほぼねらつた成果とやってみなければわからない新たな課題を得ることができた。本支援金事業を通じて得た仲間の皆さんと引き続き協力して、より素晴らしく成長させていきたい。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

ベテラン農家さん、青木村、地域社会、学校、支援金事業の仲間の皆さんとの連携、官学産共同を継続、拡大し、生産技術、学術、販売・人のネットワークをより広げたり深めたりして、それぞれの得意を相乗効果で組み合わせしていきたい。本事業のなかで機会を得て取得した認定農業者、商標登録も力として、NPO 会員の皆さま、障がい者、高齢者、女性、そして若い皆さまとともに、新野菜工場を拠点としてひたむきに、心をこめて全力で“まじめなモノ創り”に取り組んでいく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
 「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた
 「C」：一定の事業効果はあつたが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	マメからはじめる手作りみそ
事業主体 (連絡先)	青木村女性の会 かたくりの会マメ部 小県郡青木村殿戸35
事業区分	主となる区分 (6)イ農業振興と農山村づくり 関連する区分 (1)伝統文化の保存・伝承事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	1,143,862円 (うち支援金: 889,000円)

事業内容

大人も子どもも一緒に大豆栽培・糶作り・みそ作りの体験活動を実施。栽培方法や加工方法を知ることや食文化の伝承と、仲間づくりや地域のつながりを広げていく取り組みをしました。

- ・「マメからはじめる手作りみそ」のチラシを配布し参加者、会員入会の募集
- ・活動の説明会と大豆栽培・糶・みその加工について通年の講習会
- ・1000坪と300坪の2圃場で大豆の栽培、収穫、マメの選別を行う。H29年5月21日～H30年1月300坪の圃場にはパイプハウスの設置
- ・青木小学校5年生が栽培した米を使用し、糶作り実施
- ・栽培した大豆でみその仕込みを3回行う。H30年1月20日～2月22日。内1回は青木小学校5年生44名、2年生35名、教諭7名参加



【収穫したマメでみそ作り】

【目標・ねらい】

- ① 大人も子どもも一緒に活動。青木小学校2年生、5年生も体験活動。食文化の伝承と仲間づくり、地域とつながる
- ② 農業機械の購入、パイプハウスの設置。機械力で作業力向上
- ③ 青木小学校の5年生の栽培米を使用し糶を加工。会で栽培した大豆使用でみそ加工。地産地消の推進

事業効果

- ・チラシ配布や募集箱の設置で多くの人に周知でき、親子参加者の増加とマメ部へ入会希望者が増加。
- ・大豆の収穫量の増加
支援金を活用し播種機・管理機・選別機を購入。機械力により作業能率が上がり、広い面積の圃場管理がし易くなりました。収穫量も増加。またパイプハウスの設置により収穫した大豆の管理や選別作業を集めてできるようになり大変有効でした。収穫量前年比4、5倍
- ・みそ加工量の増加
圃場管理がし易くなったことで大豆の収穫量が増え、また支援金で購入した調理道具を使って一度に出来る仕込み量が増えました。みそ加工量前年比2倍

自己評価 【 A 】

【理由】

- ・機械力、道具により栽培作業や加工作業が効率よく行われ収穫量、加工量ともに増加
- ・子ども達と作業ですること食文化の継承と人とのつながりができた。

今後の取り組み

- ・次年度、活動への参加希望者もあり、大豆栽培からみそ作りまでの一貫した活動を今後も継続していきます。栽培と加工の技術の向上を目指し、食文化の継承と仲間や地域の人とのつながりを大切にしながら活動します。
- ・糶やみそが村の特産品として道の駅あおきなどで販売ができるよう、また学校給食食材として納品できるよう進めていきたい。

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	御堂地域活性化プロジェクト
事業主体 (連絡先)	東御市 (東御市役所産業経済部6次産業化推進室)
事業区分	(1) 地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	③周遊・体験型観光の推進・観光資源魅力増進
総事業費	1,500,000円(うち支援金:1,200,000円)

事業内容

御堂地域活用構想策定のため、様々なジャンルの講師を招き、市民向けワークショップを開催しました。地域住民に参画してもらうことで、様々な視点からの意見交換となりました。

ワークショップで出された意見を踏まえ、「御堂地域活用構想」を作成しました。

「御堂地域活用構想」策定後、報告会を開催し、地域住民の理解を深めました。



【報告会のよう

【目標・ねらい】

- ①様々な関係者の考え方の共有
- ②構想の策定

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

ワークショップを計4回開催し、第1回目に20名、第2回目に12名、第3回目に10名、第4回目に11名の方に参加いただきました。また、報告会には15名の方にご参加いただきました。

祢津御堂地域においては、様々な関係者が関わっており、住民の合意形成や開発の制約条件などを考慮して、現在までにワイン用ぶどう団地の開発工事を推進していただいた御堂地区荒廃農用地復旧事業推進委員会、祢津地域づくりの会、信州うえだ農業協同組合、東御ワインぶどう協議会や御堂地区でのワイン用ぶどう栽培者を中心として、ワークショップを重ねることにより参加者の考え方の共有を図り、これからの取組についての方針

※自己評価【B】

【理由】

様々な立場における関係者が一堂に会し、意見を交換しながら、構想を策定することができたため。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今後は、今回のワークショップで出された意見を踏まえ、作成された「御堂地域活用構想」を基に、地域住民の皆様、農協、ワイン用ぶどう生産者等、関係者の皆様と共に、地域活性化に向けて具体的な取組について検討してまいります。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	特産品開発支援及びPR事業
事業主体 (連絡先)	長和町 0268-68-3111
事業区分	(6) オ その他地域の特色、個性を活かした産業振興、雇用拡大に資する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	3,397,950円 (うち支援金: 2,308,000円)

事業内容

長和町の観光客やスキー場利用客等の減少により、観光業や商業振興に大きな影響を及ぼしているため、町を代表する特産品開発のため、アイスクリームの開発及び特産品化を図った。

アイスクリーム製造機械一式を購入し過去にアイスクリームの製造を行っていた、町の有志の住民が中心となり試作品の開発をした。

試作品は、町主催のワインPRイベントで試食提供を行った。



【アイスだったん】

【目標・ねらい】

- ①アイスクリーム開発
- ②特産品としての認知度の向上や、需要喚起を語るためのPR

※自己評価【B】

【理由】

計画していた販売までを行うことができなかったが、ダッタンそば味だけでなくピオーネ味のアイスクリームを開発することができ、今後の販売に向けて更なる商品開発の見込みができた。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①アイスクリーム製造機械一式を購入し、ダッタンそばやピオーネ味のアイスクリームの試作品開発を行った。
- ②長和町黒耀ワインぶどうプロジェクト委員会主催のワインPRイベント「NAGAWA WINE&FOOD FES 2018」において提供した料理のデザートとして、50名程度の参加者にアイスクリームを提供し、好評を得ることができた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今回開発したフレーバー以外にも山ぶどうや紅玉などのすでに町の特産品となっているものとコラボレーションし、アイスクリームのバリエーションを増やすことで特産品としてのブランド力を強化していきたい。また、商品開発と平行して「長和町の小さな物産館 とびっ蔵」や「和田宿ステーション特産物直売所」、町内のペンションなどで販売又は提供していくことで観光客等を対象とした需要喚起を行い、産業振興につなげていく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	『別所市場・太陽と大地のマルシェ』実施に伴う観光資源の魅力発掘と増進
事業主体 (連絡先)	別所温泉観光協会 0268-38-3510
事業区分	ア 特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト事業
総事業費	1,966,672円 (うち支援金: 1,475,000円)

事業内容

○別所市場～太陽と大地のマルシェ～

・別所温泉の中心部旧相染閣跡地にて2日間にわたり開催した。近隣地域住民、観光客だけでなく、チラシの配布や折り込みチラシの宣伝もあって市内からの多くの来場者があった。会場は各農産物や飲食のブースを中心に休憩や飲食ができるようテーブルや椅子を配置。また来場者に楽しんでもらえ滞在時間を増やせるようイベントを行うためにステージを設けた。

【イベント会場の様子】



【農産物販売の様子】

○農産物の販売

あさつゆや青木道の駅など多くの出展者が地元産の野菜や農産物加工品を中心に販売。地域で取れた農産物や果物だけでなく地元を代表する美味だれやきとりや日本酒ワイン、パンなども販売された。



○食の講習会

・食の啓発のために各分野のプロの講師をお呼びして公演。実際に試飲や試食、実演料理などを通じてより具体的にわかりやすく伝えることができた。



【講師の方左から】山口まゆみ氏・平林葉子氏・横山たか子氏・高野豊氏】



【体験左から ヨガ・ノルディックウォーク】

○体験コンテンツ

ヨガ、ノルディックウォークの体験を開催。30～40代の女性をターゲットに太陽と大地の聖地での体験をテーマに実施。食と連携した健康プログラムを開催する事で若い客層や参加者達からの良い声も多かった。



【演奏左から オーパキヤマロード合奏団、
マジシャン Sato、堀口ゆきおと音空間】

○音楽演奏・パフォーマンス

家族で楽しみ、秋の季節にあった音楽やパフォーマーを呼んでイベントを開催。飲食や買い物だけでなく、イベントとして楽しんでもらうことが出来た。



【左から 宣伝チラシ、ウェブサイト一部抜粋、
信濃毎日新聞 10/6 掲載】

○宣伝媒体・広報

イベントを象徴的なものを作って印象をつけるためロゴを作成。それに合わせてチラシなどを作成した。(チラシに記載)ホームページでは各種イベント情報の他終了後は写真などを掲載。今後も継続する際は生かして活用したい。

- ・別所市場ウェブサイト

<https://www.besshomarche.com>

- ・外部ブログ掲載 上田市商工観光課

<http://blog.nagano-ken.jp/josho/other/29830.html>

- ・東信ジャーナル 10/4 掲載

<http://shinshu.fm/MHz/22.56/archives/0000539800.html>



【目標・ねらい】

- ①地域食をテーマに地域に関係する多くの団体と連携
- ②地元農産物や食を通じて多くの観光客と地域住民が来場するイベントを開催
- ③別所温泉と塩田平地域の新しい魅力を食の啓発や購買を通じて発掘し、地域と観光客への理解を深める
- ④別所温泉の空き地である旧相染閣跡地を活用することで今後の発展的使用を検討

事業効果

別所温泉として初めて農産物や食をテーマとしたイベントが開催でき、目標を大きく上回る人が来場した。また農産物を購入するだけでなく、食の講演会などを通じて地域農産物や食生活の理解の啓発

音楽や体験を通じたイベントとしての厚みを持たせられたことで、多くの観光客や住民が楽しめるイベントが開催できた。

また、多くの関係諸団体と連携できたことで別所温泉住民や観光業従事者だけではできないイベントが開催でき、今後も様々な点で連携ができる基礎作りができた。

今後は今回のイベントだけで終わらず、継続はもちろんのこと、お寺や温泉だけでない違った魅力ある街づくりと観光振興をしていくためのきっかけとしていきたい。

※自己評価 **【B】**

【理由】

全体的に必要とされる事業は滞りなく完了し事故や不備がなくイベントが開催できたが、申請がイベント日程から近すぎたため、宣伝や通知が直近になってしまった。また初の開催であったため、観光協会の役員が中心となっていたが、人手不足であったり周知徹底がなされていないなど、今後は実行組織の見直しも加味していきたい。今後はより事前に告知や周知、関係諸団体との合意形成を円滑に測りながら、地域に浸透させるための工夫していきたい。

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	東御市滋野出身の力士「雷電為右衛門」PR 事業
事業主体 (連絡先)	しげの里づくりの会 東御市滋野乙 2962-1 滋野コミュニティーセンター内
事業区分	安心・安全な地域づくりに関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	1,244,280 円 (うち支援金: 848,000 円)

事業内容

観光客・地域以外の人達にも知って頂く為に目につく場所として滋野駅を選択いたしました。

工事期間: 平成29年11月21日から12月25日完成
 工事場所: しなの鉄道滋野駅構内
 工事内容: 構内南側土手に看板を設置
 完成式は、3月コンクリが固まり土手の土が凍結緩んだころ土盛りをし、周りをならし完成とする。

4月の桜の時期に完成式典の予定を致しております
 29年度は雷電生誕250年にあたり色々な式典が市・地域で開催されました当会もその一端として事業を行い、市内外に知って頂きたい、チラシ等で宣伝勉強会の開催・本年度雷電顕彰会も設立されその中で維持管理を里づくりの会と共に行うこととしております。

大きさ 縦2m×横4m の看板です



等身大

【滋野駅構内看板】

【目標・ねらい】

- ① 地区内外の列車利用者へ
- ② 郷土の生んだ無類力士
- ③ 勝率は現在でも1位
- ④ 地域の住民に誇りを持って欲しい
- ⑤ 後世に継承をして行く

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

滋野地区羽毛田工業団地内の会社列車通勤の方々からとても見栄えのある看板でよい、又名前は知っていたが看板で納得との評価もいただきました。

イベント: 毎年史跡巡り等を実施しております。滋野駅もコースに入れる予定です。

リーフレットも3000枚作成全戸配布、滋野駅・田中駅観光案内・道の駅・雷電生家・東御市庁舎図書館等に配布宣伝相撲ブームに乗り無類の力士がこの長野の田舎から出た事を知った方もいます

※自己評価 **【B】**

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

看板の腐食等の管理も含め、しげの里づくりの会及び雷電顕彰会にて周辺の整備管理を定期的に行う。又5年を目安に印刷・鉄骨の状況を確認修理・修繕の予定を致します。

【理由】

地域に看板は有りますが、実物大で作り地区の玄関口である滋野駅構内に建てる事が出来たことは良かった。成果は出たと思います。